



てるゆ  
照湯

小倉 小倉自治会

市指定史跡（温泉遺構）

昭和 42 年 4 月 11 日指定

照湯は慶長 6 年（1601）に森藩の飛び地になった

祓川はらいがわの左岸にある。八代久留島伊予守通嘉みちよしが天保 15  
年（1844）に再興した。「御前湯ごぜんゆ」ともいわれ、壺・

式・参の湯、滝湯（飛泉）・蒸湯・殿様の茶屋を備えた温泉郷を造ったと「鶴見七湯つるみしちどうのき廻記」にある。嘉永 5 年（1852）祓川の氾濫で倒壊したが、式の湯坪の切石の遺構が照湯温泉の東側の湯槽に残されている。別府市では江戸期唯一の大名遺構である。 （入江 秀利）